

令和7年度 岐阜地区学校図書館教育優秀賞 審査結果一覧

岐阜地区教育長会
岐阜教育事務所

◆最優秀賞◆

○岐阜市立則武小学校

本を通して人と人がつながる「ホッとできる図書館」の経営がなされている。これまで継続して取り組んできた、親子読書活動や6年生児童による読み聞かせ、図書委員会が運営する図書館祭りなどは、児童が図書館に足を運ぶためのきっかけとなっている。図書館に畳スペースを設け、寛ぎながら読書を楽しむことができるよう工夫されている。職員作業で図書館の環境整備、図書の廃棄や保護目的の透明フィルムシート貼りなどを行い、学校全体で図書館教育を充実させている。



○岐阜市立岐阜中央中学校

学校司書が生徒の声に耳を傾けて、その年の趣向に合わせて選書をしたり、テーマ展示や面出し展示の内容を考えたりして読書センターとしての機能を充実させている。前年度の課題を踏まえ、本の分類を見直したり、返却の仕方を工夫したりするなど学校図書館教育を発展的に運営している。第3学年のフロアに設けられた「新聞読み比べコーナー」は、比べる視点を学校司書が提示し、生徒が足を止め、新聞を読むきっかけをつくり、情報センターとしての機能の充実にもつながっている。



○岐阜市立岐阜清流中学校

平和学習やキャリア学習を中心に、図書館が調べ学習の拠点となるよう継続的な取組が行われている。今年度は、生徒の作成した総合的な学習の時間のまとめや、国語の学習で創作した俳句を図書館内に学習資料として集積し、自由に閲覧したり、授業で活用したりすることで学習への深まりにつながるよう工夫されている。継続して取り組まれている図

書委員会が主催するビブリオバトルや学校司書による「今日の一冊」は、生徒の「人を通して本を知る 本を通して人を知る」体験へとつながっている。



◆優秀賞◆

○岐阜市立早田小学校

図書館コーディネータを中心として学校司書、他の学校職員、図書委員会、保護者が知恵を出し合う組織的な図書館運営がされている。「本の総選挙」で丁寧に把握した児童たちの実態を分析し、指導計画や購入書籍の見直しを行っている。児童自身が自分の気に入った本を選び、図書館の本として購入してもらうよう依頼する「早田書店」、本の帯の作成、本の総選挙によるおすすめ本の投票など読書センターを充実させる取組が継続的に行われている。



○岐阜市立陽南中学校

図書担当が年間利用計画を作成・実施・見直しを行い、教科の学習でどのように図書館を活用するとよいかを、職員に対して写真も交えて紹介している。これにより、昨年度以上に学習センターとしての機能を充実させた。図書館の本の保健室での利用、図書委員会主催のくじ引き図書、返却日の記されたオリジナルのしおりなどは、読書センターの充実につながっている。図書館運営が、生徒が読書の幅を広げたり、本を通して人とのコミュニケーションを図ったりすることに大きく貢献している。



○羽島市立堀津小学校

児童の声に耳を傾けることで、利用者のニーズに合わせた読書センター、学習センター

としての機能を充実させている。「仲間と一緒に本を読みたい」という声から、図書館の一角にマットを敷き、好きな姿勢で本を読めるようにしたことは、仲間と本をきっかけに交流する巣が手へとつながっている。児童ボランティアによる読み聞かせや、都道府県の資料コーナーの設置など、これまでの取組に工夫を加えることで、児童が本に親しみ、豊かな心を培うことにつながっている。



◆奨励賞◆

○岐阜市立岩小学校

学校司書がブックトークを行ったり、読み聞かせを定期的に行ったりすることで、児童とのかかわりを深め、図書館が安心できる居場所となるようにしている。年間指導計画を活用し、国語科の学習を中心に教科の学びに図書館を利用した指導を行うことで、児童が読書生活を充実させることができるようにしている。図書委員会を中心に行ったおすすめ本の紹介を、二つの図書室にそれぞれ設置し、様々な分類の本を意図的に紹介することで児童の見方・考え方を広げることにつながっている。



○岐阜市立芥見小学校

面出し展示を増やしたり、見やすいマップを作成したりして児童が本を手にする機会を意図的に生んでいる。発行年数の古いものや活用の少ない本は、全職員で廃棄作業を行い、児童がより新しい情報に触れることができるようにした。職員が学級を入れ替わって読み聞かせをする「シャッフル読書」を行ったことや、図書委員会を中心にした「図書館祭り」キャンペーンなどの取組を行ったことは、図書館の読書センターとしての機能を充実させることにつながっている。

